

凡 例	
共用施設	
	ダム(有効貯水量)
	幹線導水路
水道施設	
	浄水場(処理水量)
	ダム(有効貯水量)
	中継加圧ポンプ場
	供給点
	導水管
	送水管
	連絡管



凡 例			
平成17年(2005年)4月作成			
送(導)水ずい道		貯水池	★
管路ずい道		浄水場	●
送水管		配水池	●
配水管		給水区域	

水を届ける



水源に恵まれない神戸は、水を買っています

神戸には、水源になる大きな川や湖がありません。市内にある布引・鳥原・千苅の貯水池の水と、住吉川などの小河川、新神戸トンネルの湧き水などを活用していますが、これらの自己水源だけでは、1日に必要な水量をまかなうことはできません。そこで、1日に必要な水の約4分の3は琵琶湖・淀川を水源として水道水を供給している阪神水道企業団から購入しています。そのほか、兵庫県水道用水供給事業から購入しており、現在、全体で90万m³/日の供給能力があります。

●阪神水道企業団

自己水源に恵まれない阪神間の各都市に琵琶湖・淀川を水源に水道水を供給するために、昭和11年(1936)に設立されました。現在、神戸・芦屋・西宮・尼崎の4市で構成されています。神戸市は昭和17年(1942)以降、水を購入しています。

●兵庫県水道用水供給事業

兵庫県下17市6町1企業団に水道水を供給している事業です。神戸市は昭和63年(1988)以降、水を購入しています。

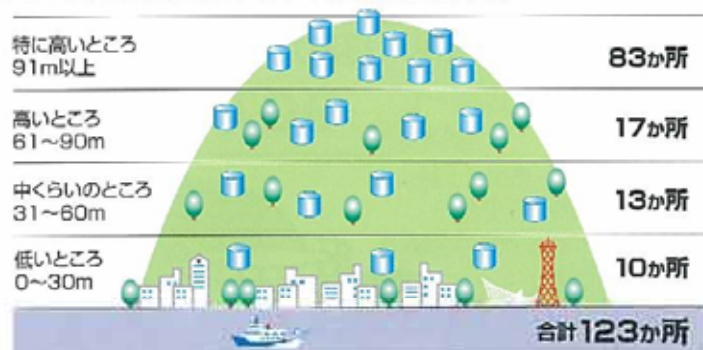


坂が多いので、水を送る工夫をしています

山と海にはさまれた神戸の配水システム

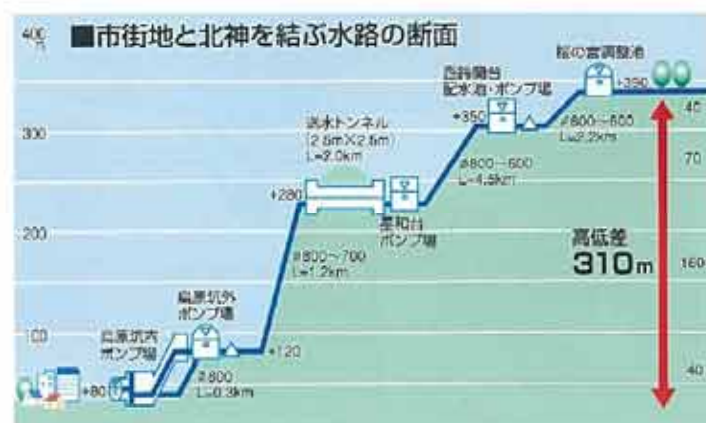
神戸は、高さ900mを超える六甲山のふもとにあり、坂の多い街です。そこで水を自然流下方式で、まち全体に適切な水圧で届けるために、土地の高さごとに配水池を設けています。このため、神戸市は配水池が数多く必要で、その数は坂の少ない大阪市のなんと15倍にもなります。

■土地の高さに応じて多くなる配水池の数



まちの水、六甲山を越え北区へ

神戸の水道は、千苅貯水池を水源に北区へ給水する北神水道と、主に琵琶湖・淀川を水源とする市街地水道に分かれています。しかし、北区の人口増加に対応するとともに、災害や渇水時にも市街地から送水できるように、市街地・北神連絡施設を整備し、平成8年度末には1日約5万m³の水を送れるようになりました。これで水源が多様化し、北区への給水がより安定しました。



安定して水をお届けします



さらに、24時間水の量をコントロール!

市内全域の配水池などの水量データをテレメータ・テレコントロールシステムで集中管理しています。市内にはりめぐらされたネットワークを使って、むだなく適切に配水できるよう、24時間遠隔操作しています。

